

学会長挨拶

節目を捉えて

総合リハビリテーション学会

学会長 岩 井 信 彦

本学総合リハビリテーション学部が開設されて来年で20年になります。また、大学院も開設され今年でちょうど15年になります。この節目を捉えて総合リハビリテーション学部では記念事業を計画しています。節目を捉えて、今までの活動を振り返り、今後を見据えていくことは意義のあることと思います。総合リハビリテーション学会でもこの記念事業に何らかの形で関わっていきたいと考えています。皆様、アイデアをお寄せください。

総合リハビリテーション学会は総合リハビリテーション学部の学生、大学院生、卒業生、教員で構成され、リハビリテーションをキーワードに相集い、研究活動を行っています。このことは学部の設立趣旨にも通じるものであり、本学会の存在意義は決して小さなものではありません。主な活動は以下の3点です。第1に学術集会、講演会、研修会等の開催、第2に会誌「神戸学院総合リハビリテーション研究」の発行、第3に会員への活動・研究助成です。

ここ2, 3年コロナ禍の関係でこれらの研究活動を充分行うことができませんでした。しかし世界中を震撼させた新型コロナウイルスもようやく収束の兆しが見えています。制限されていた研究活動も再開され、従来の研究環境を取り戻しつつあります。また、研究施設や研究室での作業とリモートワークを組み合わせ、柔軟に研究活動に取り組むことが可能となっています。さらにビデオ会議などの活用で研究チームとのコミュニケーションをより円滑に図ることも可能となりました。収束を待つのではなく、予防と備えを怠らず、研究活動を大胆に進めていくことが求められています。コロナ禍の収束は一つの節目とみることもできます。この節目を機に学生、教員が一丸となって、総合リハビリテーション学の発展を志向し、本会の活動を一層充実させたいと考えています。今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

2023年12月吉日